

スパークス・日本株・L&S

マンスリーレポート
基準日 2020年5月29日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)	
	ファンド	TOPIX配当込		
過去1ヵ月間	3.36	6.82	第13期 2016/02/15	0
過去3ヵ月間	-1.75	4.78	第14期 2017/02/13	0
過去6ヵ月間	-4.23	-6.66	第15期 2018/02/13	0
過去1年間	-0.55	6.15	第16期 2019/02/13	0
過去3年間	15.40	7.03	第17期 2020/02/13	0
設定来	144.72	153.42	設定来累計	1,800

※ 決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは、分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【ロング・ショート別構成】

	比率(%)	銘柄数
ロング	63.2	32
ショート	-29.9	47
ネット	33.3	0
グロス	93.1	-

※ 比率は対純資産総額
※ ネットはロングとショートの差引、グロスはロングとショートの合計です。

【市場別構成(ロング)】

市場	比率(%)
東証1部	43.1
東証2部	0.0
東証マザーズ	16.6
ジャスダック	3.5
その他	0.0

※ 比率は対純資産総額

【業種別構成(ロング)】

業種	比率(%)
情報・通信業	15.7
機械	8.0
医薬品	7.5
電気機器	6.2
サービス業	5.8
その他	20.0

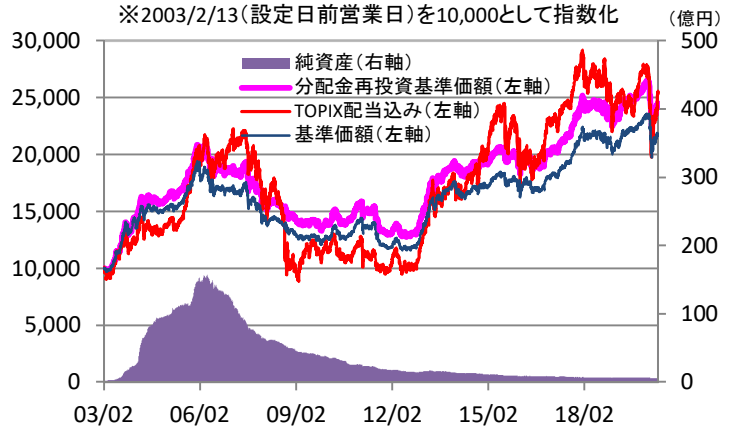
※ 比率は対純資産総額

【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	21,815 円
解約価額	21,750 円
純資産総額	5.87 億円

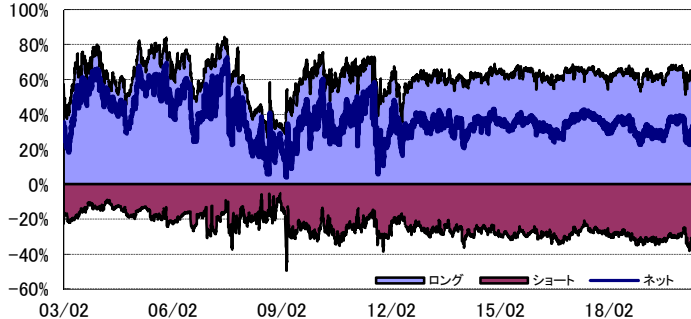
ハイ・ウォーター・マーク: 23,581 円

※ 基準価額がハイ・ウォーター・マークを超えると実績報酬が発生します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
※ 当該ハイ・ウォーター・マークは、当ファンドの毎計算期間末(毎年2月13日、休日の場合は翌営業日)および毎計算期間の最初の6ヵ月終了日に更新される場合があります。詳しくは委託会社にお問い合わせください。



※基準価額は、信託報酬および実績報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものとして計算しております。
※当ファンドはTOPIX(配当込み)をベンチマークとするものではありません。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【ロング・ショート比率推移(設定来)】



※ 比率は対純資産総額、ネットはロングとショートの差引

【組入有価証券上位10銘柄(ロング)】

順位	銘柄	業種	比率(%)
1	JMDC	情報・通信業	4.0
2	日揮ホールディングス	建設業	3.9
3	村田製作所	電気機器	3.4
4	リックソフト	情報・通信業	3.4
5	ペプチドリーム	医薬品	3.4
6	SMC	機械	3.2
7	AI inside	情報・通信業	3.0
8	SUMCO	金属製品	3.0
9	塩野義製薬	医薬品	3.0
10	ギフト	小売業	2.8

※ 比率は対純資産総額

※ 上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。

※ 「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・日本株・L&S

マンスリーレポート

基準日 2020年5月29日

ファンド・マネージャーのコメント

【市況状況】

2020年5月、日本株式市場の代表指数であるTOPIX（配当込み）は前月末比6.82%の上昇となりました。

当月の日本株式市場は、トランプ米大統領による中国への牽制発言などから下落で始まり、その後、米国での新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの臨床試験結果が有望だったとの報道や、国内外の経済活動再開への期待から上昇に転じました。

月末にかけては、米中対立が強まりながらも、日本国内の緊急事態宣言が全面解除され先進諸国を軸に政策期待もあり、上昇基調で終えました。

【運用状況】

5月の当ファンドは、JMDC、リックソフトなどが上昇し、パフォーマンスに対してプラスに貢献しました。

JMDCは、新型コロナウイルス感染拡大により同社が扱うヘルスビッグデータの価値の高まりと医療業界のテクノロジー導入に関する規制緩和のスピードアップに対する期待から、株価が大きく上昇しました。リックソフトは、社会情勢が大きく変化の中で製品開発のスピードを速めたい企業は多く同社が提供するプロジェクト開発管理ツールの需要の高まり、リモートワーク環境であっても事業推進に影響が出にくい営業形態であることなどが評価され、株価が上昇しました。

一方、東京エレクトロン、オロなどが下落し、パフォーマンスに対してマイナスに影響しました。

東京エレクトロンは、リモートワークの拡がりなどエレクトロニクス機器に対する需要の高まりから前月まで株価が上昇していたこと、トランプ米大統領による中国に対する批判的な姿勢から米中貿易摩擦の再燃に対する懸念が高まり、株価が軟調に推移しました。オロは、2020年12月期第1四半期決算で経常利益が前年同期比40.8%の増益となりましたが、売上高の通期計画に対する進捗が低調だったことで業績成長の継続性に対する不安が高まり、株価が軟調に推移しました。同社の売上高は前年同期比9.0%増加しており、株価下落は投資の好機と見て投資ウェイトを引き上げました。

株価水準が大きく変化したことで、ロング、ショートそれぞれのポジションに対する調整を行いグロス・ポジションは引き下げましたが、株価の先行き不透明感が薄れたと判断し、ネット・ポジションを引き上げました。

【運用方針】

新型コロナウイルスの感染拡大の収束と「コロナ後」の経済回復を先読みして株価は戻り歩調を強めています。日経平均株価では2019年の年末終値を100として5月末で9割超の水準まで回復してきました。2月から3月の下落が急激だっただけに株価は急速に回復しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による実体経済へのマイナス影響は軽視できない規模であり、安易な楽観は慎み個別の企業をしっかりと評価して、ロング、ショートそれぞれの投資機会を捉えていく方針です。

当月は、新規で当ファンドに組み入れた「ワークマン」についてご紹介します。

同社は、作業服や作業関連用品を主体とする専門店をフランチャイズ形態で展開する会社です。かつては演歌歌手の吉幾三さんを起用したテレビコマーシャルのイメージの通り、建設従事者や職人向けの店舗でしたが、近年はリーズナブルな機能製品にファッション性も付加することで一般消費者の支持も集めることに成功しています。また、ワークマンの強みは商品力だけではなく、データに基づいた緻密な販売及び在庫の管理、SNSやインフルエンサーをテコに一大「ワークマンブーム」に火をつけたマーケティングの戦略など多岐に渡り、同社経営陣の経営の構想力、実行力の高さがうかがい知れます。

同社の評判、業績、株価の上昇は既知となっており、株価バリュエーションによる割高感から、私どもはこれまで投資を見送ってきました。しかし、「コロナ禍」において小売業の株価下落は著しく、その煽りを受けて同社株価もピークから3割以上の下落となっていました。そのため、私どもが常々考えている「いい会社を安く買う」絶好の機会と捉えました。最終的には、①「コロナ禍」の影響を比較的受けづらい商品構成であること、②中長期的に新規出店と既存店の改装による成長余地が大きいこと、③EC（電子商取引）店舗の改良と拡大余地が大きいと考え、新規組入を行いました。

ショート投資では、金融業や不動産業では過去幾度となく危機が訪れた経験から一定の規律の基で自己資本を健全な水準に保つ企業が多くなりましたが、サービス業や小売業では過去の安定的な売上高推移を基に「危機に弱い財務体質」となっている企業が散見されます。

当ファンドでは、企業買収によるのれん計上資産が自己資本を大きく上回っている総合飲食業運営会社などに対して、消費者の行動変化が長期化し営業不振が長引いた場合にはのれん資産の評価見直しによって自己資本が毀損するリスクが高いと考えて、ショート投資を行っています。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社（以下当社）が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なく複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書（交付目論見書）のご請求、お問合せは販売会社まで。